

県職員の多彩な働き方 ～市町村への派遣編～



試験区分：行政

企画振興部
市町村課



理財係長 大野 大介

入庁後の経歴

平成19年	入庁 農林水産部 農村計画課 主事
平成22年	庄内総合支庁 観光振興室 主事
平成25年	商工労働観光部 工業戦略技術振興課 主事
平成27年	置賜総合支庁 生活衛生課 主事
平成28年	川西町未来づくり課未来創造室 主任 〔置賜総合支庁総務課課付主査〕
平成30年	企画振興部 市町村課 理財係長



Q 市町村への派遣時はどのような仕事を担当していましたか。

派遣の2年間、いわゆる町の主要プロジェクトに関わらせてもらいました。1年目は病院を核にした新しいまちづくりのための基本構想、2年目は老朽化した町役場の新庁舎整備の基本計画の策定に携わりました。計画を作ると言っても簡単なことではなく、町の一大プロジェクトだったのでなおさらでした。本当に密度の濃い2年間だったと思います。

Q 派遣で印象に残ったことは何でしょうか？

これまでの県の仕事では、外に出る機会があっても、住民の方と直接話をすることはあまりありませんでした。市町村はその点、何をするにも住民の方との距離が近い。役場の建替えて住民の方への説明会をたくさん開催したのですが、参加者の方々から生まれる臨場感というか熱量に呑まれそうになって。対する市町村の職員も自然と住民の方の声を聞く姿勢になっている。時間がなくても色々な意見を聞き、わかりやすい言葉で理解が得られるように工夫しているんですね。

Q 派遣を経て、ここが変わったという点がありますか？

相手が県民の方であっても職員であっても、まずは相手の話をよく聞くように努めています。また、自分の考えもわかりやすい言葉で相手に伝える。コミュニケーションを大事にすることが、仕事をするうえでの基本になっています。

Q みなさんにメッセージをお願いします。

県職員は配属先で様々な体験や出会いがあり、市町村職員として働くチャンスもあって、限りなく視野を広げ、成長することができる魅力的な仕事だと思います。意欲のある方、熱意のある方にはぜひチャレンジしてほしいですね。